

日本の水文化と自然に対する美意識

国土交通省の「日本の水資源」によると、地球上に存在する水の量は、14 億km³と推計されている。そのうち、塩分を含まない淡水はわずか2.5%で、私たちが利用できるのは地球上の水全体の0.01%に過ぎない。日本の水道水は世界と比べて安全性が高いにもかかわらず、ミネラルウォーターを買う人もいる。これは日本人の美意識と水文化が関連しているのではないかと考えた。そこで本研究では、現代の日本国民の自然に対する美意識が日本の水文化に影響を与えているのかを検討する。

水道水の原水である川の水や雨水は、安心して飲水に変える浄水場で沈殿・ろ過・消毒の3段階の浄水処理が行われている。日本の水道水は、人体の健康に悪影響がないよう安全基準をクリアした水を提供しており、おいしさまで追及されている。水文化と水環境、自然を相互にみていく。

少子高齢化により人口減少が著しい現在、水の使用量の減少も顕著に現れている。この現状は水道施設の老朽化や人材育成などの視点において水道事業者が苦しんでいる。

日本の水文化と自然に対する美意識について考察したうえで、節水行動の促進のために国や企業はどのような取り組みをしているのかを紹介し、同じような取り組みがより広まることを願う。